

TOP > 文春野球コラム > オリックス・バファローズ > 大学教授vs.人工知能 ChatGPTはオリックスの熱い「応援コラム」を書けるのか？

大学教授 vs. 人工知能 ChatGPTはオリックスの熱い「応援コラム」を書けるのか？

文春野球コラム ペナントレース2023

木村 幹

2023/04/23

genre : [エンタメ](#), [スポーツ](#)

今、大学を揺るがしている大きな問題がある。予算削減？ もちろんそうだが、それは前回書いたからさすがに今回はやめておきたい。少子化？ それはもう織り込み済み、というより大学関係者は諦めている。コロナ？ そろそろ終わりを迎えそうだから、流石に大丈夫だと信じたい。問題はもっと差し迫った、今学期中に既に深刻になりつつある脅威である。

勘のいいひとは気づいたに違いない。ChatGPTだ。昨年11月にアメリカのベンチャー企業であるOpenAIが公表した人工知能チャットボットは、世界中に衝撃をもって受け止められ、僅か2か月の間に1億人を超えるアクティブユーザーを集めたという。TikTokやInstagramでも同じだけのユーザーを集めるのには、各々9カ月或いは2年半かかったというから驚異的だ。

歌、俳句、翻訳……大学教授より優秀な人工知能

そしてそれにはもちろん理由がある。使ってみればすぐわかるように、この人工知能、これまでの単に対話ができるだけのものと違って、いろいろな「芸」ができるのだ。例えば、歌を歌え、といえ（文章上だが）歌って見せるし、俳句や詩だって作れる。著作権の関係上、全文をお見せできないのが残念だが、先ほども「ChatGPTの歌を歌え」と命令したら、「おーおChatGPTいーお前こそが最も優秀なAIだあー」みたいな歌を作って歌っていた。ChatGPTお前、性格やばいだろう。

それだけではない、既にお気づきのようにこの人工知能、英語だけでなく、日本語や韓国語等の多様な言語ができるのだ。だから、「以下の文章を英語に訳せ」とか命令すると、日本語の文章をすらすらと英語に直したりしてくれる。えー、どう見たって、こいつ俺より優秀じゃん。どうする俺。授業のスライド今度、訳してもらおうと。しかも無料だし。

ということで、大学は今、大変な事になっている。何たってこの人工知能、例えば、「日本における中選挙制の廃止の意義と影響について述べよ」とか入れると、すらすらと文章を作ってくれるのだ。だから、大学ではこの人工知能を使って授業の課題の回答を作って提出する人も出てくる可能性がある。もちろん、人工知能が書いた答案に「優」を与える事は出来ないし、何よりもそれでは学生の勉強にならないから、教員の側は本当に学生が書いたのか人工知能にやらせたのかを見分けられないといけないことになる。しかし、問題はそれをどうやってできるか、だ。

とはいえ同時に考えなければならない事もある。大昔、電卓やパソコン、更にはネットが出てきた時、大学ではいろんな議論があったけど、今ではそれらを使ってはいけない、という人はいない。道具は使える方がいいし、使いこなすように教えるのが教育者たるものの務めだからだ。よしだったら、この人工知能も本格的に使ってみようじゃないか。ちょうどネタ切れの野球コラムもあるし。

ChatGPTはオリックスの「応援コラム」を書けるのか

という事で、ChatGPTにオリックス・バファローズの応援コラムを書かせてみた。何々、オリックスバファローズは1936年に設立された球団で、お、ちゃんとこいつ前身在阪急ブレーブスだっていう事、知ってるじゃん。で、金田正一、王貞治、星野仙一などの名選手を輩出してきました、って、一人もあってねーよ。そう、こいつの特徴はよくわからない時に、平然と適当な文章を書く事なんだよな。そして更にたちの悪いのはこういった適当な話ともっともらしい話が、ごちゃごちゃになって出てくる事だ。だから続く文章には、若手の育成に力を入れて2022年に優勝した、なんていう事も書かれている。因みに4番打者は岡田准一で、38本打ってホームラン王になったらしい。それ、絶対球団の本拠地ひらばーだろ。

とはいえやっぱりコラムらしくない。どこが違うのと思って考えたら、文章が単にオリックスの説明になっていて、「応援コラム」になっていない。なので、叱りつけて、ちゃんと「応援コラム」になるような文章を書かせてみる。なになにオリックスの応援は、ファンがスタンドで立ち上がって跳ねたり、左右に移動します、だと。それ球場がガラガラの時の千葉マリンだろ。そもそも「応援コラム」は応援の仕方を説明するコラムじゃねーよ。

〈筆者 オリックスバファローズの応援コラムを書いてください

ChatGPT はい、オリックスバファローズの応援コラムを書かせていただきます。

オリックスバファローズは、日本プロ野球のパシフィック・リーグに所属するプロ野球チームです。球団創設は、1936年と長い歴史を持ちます。過去には、金田正一、王貞治、星野仙一など、日本野球界を代表する名選手や名監督を輩出してきました。

そして、現在のオリックスバファローズは、育成組織の充実に力を入れ、若手選手の育成に注力しています。この取り組みが実を結び、現在のチームは、2022年シーズンにはリーグ優勝を果たしました。そして、日本シリーズでも活躍し、優勝を目指して戦いました。

オリックスバファローズは、攻撃陣の強さが特徴です。中でも、主砲の岡田准一選手は、2022年シーズンには38本のホームランを放ち、リーグの本塁打王に輝きました。また、若手選手の中にも、将来を囑望される選手が多くおり、今後のチームの成長にも期待が持てます。

オリックスバファローズの応援には、多くのファンがいます。特に、球場での応援は熱狂的で、オリックスバファンの熱気には誰もが圧倒されます。そして、オリックスバファンは、「バファローズファミリー」と呼ばれる、温かいコミュニティを形成しています。

このように、オリックスバファローズは、優れた選手たちが所属するチームであり、熱狂的なファンが応援するチームです。今後も、選手たちの活躍とファンの熱い声援が合わさって、チームが成長していくことを期待しています。〉

自分にしかできないことはどこかにある

ここまで来たら、もう何が何でもこいつに立派な野球コラムを書かせてみせる。野球コラムっていうのは、ほら、もっと熱いもんなんだよ。選手が読んで感動するような文章を書けよ。ふむふむ、私たちは熱い思いを込めて、熱い応援をしています。いや、「熱い」という言葉をたくさんはめ込んだって、熱い文章にはならないんだよ。あかんかー、お前まだまだやな。

こうやって遊びながら、でも思う。技術進歩の速度は速いから、やがては人工知能が、どこかの大学教授よりも遥かに面白い野球コラムをすらすらと書いてしまう時代が来るのだろう。そしてそれはそれで仕方がない。その時人間は、自分自身他に何ができるのかを考えて、探していくしかないだろう。

そして、きっとその場所はどこかにある。そうかつて、大学や社会人時代に強打で鳴らした選手が、中堅そして晩年になって、チームの中で新たにポジションを探していくようなものである。そして、どんなに地味でも、地道に仕事をこなせば何時かは、自分だけにしかできない活躍の場がやってくる。小田選手、最終回のバックホームしびれましたよ。自分も残る人生で、「守る場所」をもう一度探してみますかね。



オリックスバファローズの応援コラムを書いてください



はい、オリックスバファローズの応援コラムを書かせていただきます。

オリックスバファローズは、日本プロ野球のパシフィック・リーグに所属するプロ野球チームです。球団創設は、1936年と長い歴史を持ちます。過去には、金田正一、王貞治、星野仙一など、日本野球界を代表する名選手や名監督を輩出してきました。

そして、現在のオリックスバファローズは、育成組織の充実に力を入れ、若手選手の育成に注力しています。この取り組みが実を結び、現在のチームは、2022年シーズンにはリーグ優勝を果たしました。そして、日本シリーズでも活躍し、優勝を目指して戦いました。

オリックスバファローズは、攻撃陣の強さが特徴です。中でも、主砲の岡田准一選手は、2022年シーズンには38本のホームランを放ち、リーグの本塁打王に輝きました。また、若手選手の中にも、将来を囁望される選手が多くおり、今後のチームの成長にも期待が持てます。

オリックスバファローズの応援には、多くのファンがいます。特に、球場での応援は熱狂的で、オリックスファンの熱気には誰もが圧倒されます。そして、オリックスファンは、「バファローズファミリー」と呼ばれる、温かいコミュニティを形成しています。

このように、オリックスバファローズは、優れた選手たちが所属するチームであり、熱狂的なファンが応援するチームです。今後も、選手たちの活躍とファンの熱い声援が合わさって、チームが成長していくことを期待しています。